

四日市市と米国ロングビーチ市の姉妹都市交流 ～海を越えて育む絆～

三重県四日市市政策推進部秘書課

提携に至るまでの道のり

四日市市では、1957年頃から市民の間に文化的な生活の質向上のため、知識や関心を国際化に向けようとする気運が高まり、市立図書館では外国雑誌や洋書を読む運動が続けられていました。

この取り組みを通じて、名古屋アメリカンセンター（在名古屋米国総領事館内）と連絡を取り合ったのが提携のきっかけとなりました。

その後、姉妹都市提携を結ぶにあたり、①人口30～40万人の都市、②港を中心とした商工業都市、③太平洋岸の都市などに重点をおき、候補都市の選定を行いました。検討の結果、①港を有し外航船により結ばれている、②石油化学中心の工業都市、③両市の位置関係がすでに提携している名古屋市とロサンゼルス市の位置関係に類似、④周囲に本市の出身者が多く移住しているなどの点で親しみがもてるということから、カリフォルニア州ロングビーチ市を候補都市として選び、1963年10月に提携を結ぶことになりました。

市民レベルによる交流

ロングビーチ市との姉妹都市提携後、ロングビーチ・ヨッカイチ姉妹都市協会（以下、姉妹都市協会）を窓口として、教育、文化・スポーツ、医療、環境などの広範な分野において交流事業を行うとともに、5年ごとに市関係者や市民による周年事業を開催しています。

2013年の姉妹都市提携50周年事業では、公式代表団の相互派遣や記念式典・レセプション、「地域社会づくり」シンポジウムの開催などを行い友好を深めるとともに、50年の交流のあゆみを振り返った記念誌を作成しました。



姉妹都市提携50周年を記念し、田中市長とフォスター市長、シュリーン姉妹都市協会会長が覚書を交わす

(1) 異文化や価値観の違いを学び芽生える新たな友情

1965年から始めた「交換学生・教師の相互派遣事業」は、高校生2人と教師1人の計3人（通称：トリオ）を隔年相互派遣しており、今年度は、本市からの派遣の年にあたりました。約3週間の滞在中、親善大使としての役割を担いながら、ホームステイを通じ、互いの文化を学ぶとともに市民レベルでの交流を行っています。これまで50年間にわたり、一度も絶えることなく、通算150人が往来し、両市の交流の中で最も長く続いている重要な事業のひとつとなっています。

また、トリオにとって、家族の一員としてホストファミリーと過ごす経験は、何ものにも代えがたく、帰国してからもお互いに連絡を取り合うなどかけがえない存在となっており、両市の交流発展にも寄与しています。



大四日市まつりに参加するトリオのメンバー

(2) 英語での授業や交流で深める国際理解

YEF (Yokkaichi English Fellows) 事業は、1986年に始まり、姉妹都市協会により選考された英語指導員を毎年招いています。2013年度までに87人のYEFが小・中学校をはじめとして幼稚園でも英語指導や国際理解教育を行っています。また、指導員の中にはYEFを終えた後も、日本の文化や伝統、ライフスタイルを気に入り永く本市に住んでいる人もいます。



中学校で授業を行うYEFの英語指導員

(3) 医療の技術と知識のさらなる向上を目指して

2002年には姉妹都市協会の力添えにより、市立四日市病院とロングビーチ市内の医療機関との間で交流事業が始まりました。市立四日市病院の医師を2013年度までに12回、のべ46人の派遣を行いました。

派遣期間中、ロングビーチ・メモリアルメディカルセンターなどの医療機関において、米国の医療制度をはじめ、おのおのの専門に応じた高度先端医療について学び、各医師の医療に関する技術と知識を深めるとともに、市立四日市病院の医療レベルの向上につなげています。

(4) 環境問題を互いに学びながら深める相互理解

「地球環境塾」は、2008年に四日市市制111周年記念事業の一環として初めて開催しました。

それ以来、毎年夏期に約9日間、姉妹都市のロングビーチ市と友好都市中国天津市、四日市市の高校生が、本市にある公益財団法人国際環境技術移転センターで環境問題について学習や意見交換を行うとともに、寝食を共にすることで相互理解と友情を深めています。

背景には本市において、50年ほど前に急速な経済成長の一方で、大気汚染による四日市公害が発生し、その後、市民、企業、行政が力を合わせて

環境改善に取り組んだ結果、大幅に改善され、青空がもどるとともに国の環境基準もクリアしました。その後も良好な状態を保ち、経済発展と環境保全の両立を図りながら、まちづくりを進めてきた経験を有していることにあります。次世代を担う青少年たちが、この「地球環境塾」への参加を通して国際的視野から環境について学び、環境保全活動の活性化につながることを期待しています。

未来を見据えた交流のかたち

2013年の姉妹都市提携50周年記念事業の一つとして、四日市市の公式代表団がロングビーチ市を訪れた際に、両市長と姉妹都市協会会長の間で覚書を交わし、これまでに幅広い分野における交流を通して大きな成果を挙げてきたことや、今後、新たに地域社会づくりや産業、観光などの分野においても交流を図り、互いに協力し合っていくことを確認しました。

また、昨年9月には、新たな試みの一つとして、これからの地域社会づくりに向けた人材育成事業の充実を図るため、四日市市の自治会代表者などによる訪問団が、ロングビーチ市で行われている「地域づくりリーダーシッププログラム」のノウハウを学ぶために同市を訪問しました。このプログラムは、1992年から始まり市民からの公募による受講生を対象に、講義や実践を通じて地域づくりに携わる人材を育成するものであり、全米で高い評価を得ています。

滞在中には、地域づくりに携わるボランティアとお互いの地域における取り組みや課題について話し合いました。その結果、言葉や文化は異なっても、「住みやすい地域づくり」へ向けた活動や思いは同じであることを知るとともに、新しいかたちの人と人との交流を築くきっかけとなりました。

今後、半世紀を越える姉妹都市交流の中で培ってきた絆を大切に、ロングビーチ-ヨッカイチ姉妹都市協会をはじめ、ロングビーチ市関係者との連携をこれまで以上に密接に行うことによって、将来にわたり持続性のある活発な交流を推進していきたいと考えています。